



広報戦略 “育ち続けるMIUSE、自立できるMIUSE、使われるMIUSE”を目指して！

したたかに、機関リポジトリをPR！

育ち続けるMIUSE

- 教員DBを活用
教員DBのデータから、教員の成果物リストを作成。「この論文をください。」戦略で、登録数UPを狙います。
- 図書館業務のあらゆる局面を通じて
学内でのILLサービスなどの時に、広報チラシなどを配布し機関リポジトリ認知度UP。
- トップダウン&ボトムアップの広報
附属図書館長(情報・国際交流担当理事)からの広報&図書館スタッフによる草の根PR(研究室へ営業活動)。
- 情報リテラシー講習会での活用
図書館実施の「情報リテラシー講習会」で、機関リポジトリの紹介。
- 学生向け広報誌での紹介
図書館発行の広報誌「学塔(gakuto)」で機関リポジトリを紹介。
- グッズの製作
日常的に使用する文具などの広報グッズの開発。

「1年に、1論文でもよいので論文のご提供を！」とPRをすれば、教員に負担をかけず登録数増加を期待できるかも？
全教員数×1=700！



MIUSEのロゴ入り広報グッズを作り、先生方の研究室への営業活動で配布！

MIUSE



自立できるMIUSE

- 安定感&小回りが利くことをPR
著作権処理から登録まで図書館で完結！一つの場所に作業を集約しているため、安定的にシステム運用ができる環境をPR。安心して自発的な論文提供をしてもらえる環境づくりを進めます。
- 教員だけでなく、事務職員にも広報！
事務職員へ広報をすることにより、自立に必要な継続性のある学内予算確保への理解を求めます。
- 教員自身での登録の道を模索
教員自身で登録していただくシステムを考えることにより、より自立できるシステムへ。

使われるMIUSE

- 学内既存システムとの連携
E-learningシステムの画面に統合検索システムIsee(MIUSE登録論文の検索もできます)のサーチボックスを置きます。MIUSEの利用促進だけでなく、存在のPRにも。
- 新たな情報発信の方法として
教員のニーズに合わせた活用方法が可能であることをPR。
(学内紀要のオーバーレイジャーナルや、退職記念論文集発行の場としても?)